

れんけい

Vol.024 2021.3

福島県 森林自己学習支援事業

令和2年度 福島県森林自己学習支援事業成果報告会 + 勉強会を開催しました

令和3年2月6日（土）に成果報告会を開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、オンライン開催としました。

【成果報告】 郡山女子大学ナチュラルライフスタイル部（以下NLS部）

NLS部の「こおりやま開成の杜復活プロジェクト」では、東日本大震災以降、放射線等の影響で活用が難しくなってしまった学校林「郡山開成学園総合教育園（郡山市熱海町石筵）」の放射線量測定や環境調査を実施し、安全性の評価に取り組んでいます。

今年度の活動では、環境放射線量測定や土壌、きのこ、植物調査、動物の定点調査を行い、震災から10年が経過する「郡山開成学園総合教育園」の状況として、一部の敷地内のきのこでは放射性セシウム濃度が食品の基準値を上回っていた（※）ことや、リスやカモシカ、サル、クマなど多くの動物が生息していることの報告がありました。

発表の中には、葉を食べるカモシカの様子や、イノシシの親子などの動画もあり、普段見ることのできない野生動物の様子が見られる貴重な機会となりました。

NLS部では、今後もこのような環境調査や里山の整備を継続し、震災前のように子ども達が安心して遊ぶことのできる場所にするための活動を続けていくとのことでした。

※郡山市の野生きのこは現在出荷制限がかかっています。



NLS部の発表資料より

【勉強会】 講師：関根木材工業株式会社 関根健裕氏

関根氏は南会津町に生まれ、大学進学で一度県外へ出られましたが、後に地元に戻り家業である関根木材工業株式会社を継がれました。本業である木材店の他にも、一級建築士、ブルワリー（ビールの醸造所）のオーナー、南会津産の木材を使用した玩具ブランドの役員など様々な顔を持つ方です。

南会津町で林業に関する様々な活動をされてきている関根氏ですが、これまで行ってきた取組の原動力はすべて、地域の山林の荒廃や産業の衰退に歯止めをかけたい、地域を元気にしたいという思いからです。その思いから、関根木材工業の事業で使用する木材における、南会津産木材の利用度を10%からほぼ100%に引き上げた実績があります。特に関根氏が自ら設計する家造りにおいては南会津産木材を95%以上利用しており、これだけ木材のトレーサビリティを保障できるのは他社ではなかなか難しいとのことでした。また、ご自身が経営するブルワリーでは、地元の特産物（リンゴやトマト、木材）を利用したクラフトビール作りで南会津町に新たな産業を生み出してこられました。

関根氏は今回の勉強会の中で、自身の経歴（地元高校の商学部を卒業後、関東の大学で法律を学び関東の木材問屋に就職後、地元に戻る）を話したのは、一見して関連性のない経歴でも、今現在それが活かされて自分の思うような活動ができており、学生の皆さんにも様々な可能性があるのでは興味のあることに挑戦して欲しい、という思いを伝えたいためだとお話しされました。



関根氏の発表資料より

合同座談会
in
福島東陵高等学校

進路セミナーを実施しました (学校法人東陵学園福島東陵高等学校)

11月9日(月)に学校法人東陵学園福島東陵高等学校 普通科特別進学コースの1年生～3年生を対象とした進路セミナーを実施しました。

講師を務めたのは日本大学大学院工学研究科1年生、福島大学大学院人間発達文化研究科2年生、福島大学行政政策学類4年生の3名です。事前アンケートの「大学生に聞いてみたいこと」を基に、2回の打ち合わせを経て講義資料を作成し、準備をしてきました。

当日は、講師それぞれの個性を活かした講義に高校生も熱心に耳を傾けていました。

今回は1時間半という限られた時間の中で、質問タイムも含め、いかに充実した講義にできるかが課題でしたが、大学生のアイデアにより、講師がローテーションで各学年の教室に移動し講義をする形で行ないました。3回講義をする大変さはあったようですが、回を重ねるごとにコツも掴み、より良い講義ができていたように思います。

高校生からは「大学がどういう場所なのか、大学生の方々自身のことを具体的に話してくださったのでわかりやすく面白かった」「最近では将来に不安があって悩んでいたけど、今回の講話を聞いて悩みが少し晴れて勉強のモチベーションアップにもつながった」「行動することが大事という言葉が印象に残った」「モチベーションを保つことが大切なのだと分かった」「大学がとても楽しいと言っていたことが印象に残った」といった感想をいただきました。

今回のセミナーが、これからたくさんの可能性に向かって進んでいく高校生や大学生の皆さんにとってプラスになれば幸いです。



子どもと青年の
異世代交流事業

ぽかぽか親子たんけん隊～冬の大冒険スペシャル in フォレストパーク！～を開催しました

このイベントは福島県の「子どもと青年の異世代交流事業」に基づき実施されました。郡山女子大学短期大学部幼児教育学科の学生が企画をし、当日は福島学院大学 福祉学部 子ども学科の学生もボランティアで準備・運営に参加しました。

当日の12月6日(日)は天気も良く絶好の外遊び日和！会場にはワクワクする遊びのコーナーが4つあり、グループ毎にローテーションで回りました。

イベント中は、時間通りに進まなかったり、予想外の子どもの動きがあったりなど、計画通りにいかないこともあったようですが、来場者に笑顔且つ臨機応変に対応している学生はたくましく、さすが未来の保育者ですね。子ども達からは「すごく楽しかった！」「またやりたい！」、保護者の方からは「とても良かったです」「また来ます」などの声が聞かれました。

新型コロナウイルス感染症の影響のため、企画開始からイベントの開催日まで時間がない中で、どうすれば子どもたちや保護者の方に楽しんでもらえるかを懸命に考えてきた成果があったのではないのでしょうか。この経験がきっと学生の皆さんの将来に活かされていくことと思います。



《自然素材でクリスマスクラフト作り》



《森のみっけグランプリ》



《焚火でぽかぽか大作戦》



《親子で森のオリンピック》



会津若松ザベリオ学園高等学校でオンデマンド配信による「課題探求学習 出前講座」の第3回～5回を実施しました

「SDGs」(Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標))に焦点を当て、6名の先生に、関連するテーマの講義を行っていただく今年度の出前講座。今回は第3回目から最後の第6回目までの講義をご紹介します。



福島大学 経済経営学類 准教授
【専門分野】環境経済学

沼田 大輔 先生

ごみの少ない会津若松市をどう作るか (身近な廃棄物の課題)

まず、廃棄物とは、ごみとは何か、の基本的なお話から始まり、福島県や会津若松市、近隣自治体のごみの現状についてグラフや図を用いて解りやすくご説明いただきました。

平成30年度の調査結果による、1人1日あたりのごみ排出量(10万人以上の市)のワースト2位と3位が郡山市、福島市、ワースト11位が会津若松市だったことに驚いた皆さんも多かったのではないのでしょうか。除染活動により発生したごみ(草木)が含まれていたり、住民登録をしていない除染作業員の方が人数に含まれていないなども要因のようですが、それでも全国と比較して排出量は多いようです。次に、ごみを減らすために施行されている事例を紹介していただきました。その中でも、プラスチックごみを減らすための施策の一つであるレジ袋有料化は、多くの人が身近に感じる施策ではないのでしょうか。

プラスチックごみについては、沼田先生の講義資料の中で紹介されていた動画「プラスチックの海(国連広報センター製作)」にある、死んだミズナギドリの中に入っていた大量のプラスチック片の映像が衝撃的でした。映像は現状を知り、エコ意識を高めるための強力なツールになると感じました。

最後にごみの削減と施策についての課題も出されました。講義を視聴し課題に取り組むことを通じて、生徒の皆さんの興味や理解が更に深まっていくことを期待しています。



日本大学 工学部 土木工学科 教授
【専門分野】環境生態工学

中野 和典 先生

ロハスのトイレの開発 ～自立型トイレを世界に届けるために～ (安全な水とトイレ)

最初に下水道の歴史と功績について説明いただき、病気の予防という観点から、トイレには大切な役割があることが分かりました。次に、インフラの整備が十分でない発展途上国を中心に、多くの人がトイレのない生活を送っていること、日本など先進国と言われている国においても、災害時に電気や水道などのインフラが被害を受けることによって、トイレが使用できなくなることが説明されました。中野先生の講義動画の中に災害時の避難所のトイレの写真が掲載されていますが、排泄物や汚れたトイレトーパーで溢れた様子は、もはや衛生施設の役割を果たしていませんでした。トイレに行きたくないために水や食事を摂らず、健康を害した方や亡くなった方も多くいたそうです。

このような、トイレが整備されていない国や、非常時に健康を維持するための解決策として、先生は①畜産排水処理施設、②学生食堂排水を浄化して再生するロハスの花壇、③ロハスのトイレの実証実験、での実績を挙げ、インフラに依存しない「ロハスのトイレ」を提案されています。

普段から当たり前で使用しているトイレですが、先生の講義を視聴し課題に取り組む時間を通じて、改めてその役割や大切さについて実感するとともに、トイレのない生活をする人や非常時について、自分ごととして考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。



放送大学福島学習センター所長・福島県男女共生センター館長
【専門分野】成人教育・農村女性論・ジェンダー学習概論

千葉 悦子 先生

ジェンダー平等をめざして ～足元を見つめなおす～

講義では、ジェンダー平等に向けた世界の潮流や途上国の課題についての説明に続き、男女平等における世界の中の日本の位置(ジェンダーギャップ指数)や現状と課題について、女性の管理職の割合、男女間の賃金格差や家事・育児に費やす時間の差などの統計資料を用いながら詳しく説明いただきました。講義の合間には、性別による職業・家庭での役割や「男とは、女とはこういうものだ」等の思い込み・固定概念を問うクイズや質問がありました。千葉先生は、思い込みや固定概念が表れた例として、職場や学校、家庭でのハラスメントなどを挙げており、例えば「男のくせに～」「女のくせに～」といった言葉の裏には「固定的性別役割分担意識」があると説明されています。最後に先生がお話された「目指すのは誰もが生きやすくひとりひとりが幸せな社会」「ジェンダーに捉われない職業選択・生き方」を実現するためにはどうすれば良いか、関連していくつかの課題も出されました。生徒の皆さんは今回の講義を聞いてどのように受け止めたのでしょうか?



会津大学 企画運営室 上級准教授
【専門分野】 高等教育、ネットワークセキュリティ、
ソフトウェア工学、分散システムとその管理

阿部 泰弘 先生

ICTに期待されている役割 (産業と技術革新の基盤を作ろう)

阿部先生は、まずICTとは何か、その役割や特徴について説明してくださいました。次に第1回目の三瓶先生の講義中に説明があったAIに関連して「AIと人間」について、第2回目の西崎先生の講義のテーマ「アフリカの貧困と教育」に関連して「サブサハラアフリカのインフラの現状と産業面での課題」についてのお話がありました。以前視聴した講義の復習として、AIの限界やAIとの向き合い方を改めて考えたり、サブサハラアフリカの現状についても新たな発見があったのではないのでしょうか。

サブサハラアフリカについて先生は、展開されているベンチャービジネスを例に挙げ、ビジネスを成功させるには、そこに住む人々の生活を知り課題を理解することが大切であり、また、私たちの生活との接続性を考えることによって世界全体がお互いに助け合って経済的なメリットを得ることができたり、産業としても成り立つ可能性があるとお話されています。

新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン授業やオンライン会議は今や日常となり、ますますICTは私たちの生活に欠かせないものになりました。日頃慣れ親しんだICTですが、今回の先生の講義ではICTの新たな可能性について発見があったのではないのでしょうか。

今年度の課題探求学習ではいずれの先生も課題に対する答えを敢えて提示していません。身近に感じる課題もあれば、そうでない課題もあったかもしれませんが、自分ごととして考えて答えを求め続けることでSDGsの目標達成にも、生徒の皆さんの今後の人生にもプラスになることを願っています。

今年度の課題探求学習の成果は、3月15日(月)に成果報告会(オンライン)で発表します。今回講師を務めてくださった先生に出席いただき、高校生の発表に対してコメントいただく予定です。成果報告会の様子は後ほどFacebookでお知らせいたしますので、楽しみにお待ちください!

キャリアサポーター制度

今年度からACFの事業となったキャリアサポーター制度による活動について、10月からの活動の一部を紹介します。今年度は新型コロナの感染が拡大する中、イベント等の多くがオンラインに変更を余儀なくされました。

学生とキャリアサポーターとの交流会など

これまで対面で開催してきた「学生とキャリアサポーター(社会人)との交流会」を初めてオンラインで開催しました。オンラインということもあり不安な学生もいたと思いますが、キャリアサポーターの皆さんの温かい雰囲気によって、学生は緊張せずに色々な話を聞くことができましたようです。



学生とキャリアサポーターとの交流会(オンライン)の様子



キャリアサポーターと学生との座談会(郡山女子大学)

また、ACF会員校においても、「キャリア支援講座」(福島学院大学)、「キャリアサポーターと学生との座談会」(郡山女子大学)、「業界・研究セミナー」(桜の聖母短期大学)などにおいて、キャリアサポーターにご参加いただき、学生からの様々な質問にお答えいただきました。どれもが学生にとって貴重な機会になったようです。

News Letter発刊と動画公開

キャリアサポーター制度にかかわる学生や地域への広報ツールとして、新たにNews Letter「キャリアサポーター通信」を12月に創刊しました。キャリアサポーターのインタビューやメッセージなどの連載企画などにより、キャリアサポーターの認知度アップにつながることを期待しています。また、キャリアサポーターの協力によりキャリアサポーター紹介動画を作成し公開しました。少しでも多くの学生に興味を持って視聴してもらえればと思います。

動画はこちらからご覧ください。↓

<http://cocplus.net.fukushima-u.ac.jp/career-supporter/career-supporter-movie>



福島県からの受託事業「リーディング起業家創出事業」については、別途「ニューズレターれんけい臨時号」に掲載いたします。

ニューズレターれんけい Vol.24 発行：アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局

〒960-1296福島市金谷川1番地 福島大学 地域連携課内

【TEL】 024-548-5295 (ACF事務局) 024-504-2889 (キャリアサポーター制度運営事務局)

【MAIL】 acf@adb.fukushima-u.ac.jp

cocplus@adb.fukushima-u.ac.jp

【URL】 <http://acfukushima.net/>

<http://www.facebook.com/ACFukushima/>

